

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直し委員会 第4回安心部会 委員意見要旨

No.	項目	発言要旨
1	子育て	・「多様なニーズに対応したサービスの充実」では、親本人の代わりに子どもを引き受けられる対応が可能になるとよい
2		・待機児童数の目標指標について、「全国順位」という書きぶりは検討できないか？ ・日本一多い、と勘違いされかねない
3		・目標指標において、待機児童は人数で表せないか？ ・子育ては経済界の協力が必要 ・加えて男性の協力も必要のため、男性の育児休業・休暇の取得率などが目標指標になってもよいのではないか
4	結婚・妊娠	・成婚数の目標指標について、120組の根拠について説明してほしい ・結婚の内訳にしても、幸せな結婚であるべき ・「ゆったりとした気分で子どもと過ごす時間がある母親の割合」について、せめて80%位は行くべきではないか
5	児童虐待	・児童虐待について、問題の根幹は、虐待を虐待と認識できずに接している親 ・親のアンガーマネジメントができていないことなどが問題 ・虐待に特化したカリキュラム、専門家の育成に取り組み、各市町村に配置してはどうか ・親たちを導くグループセミナーに強制的に参加させるなどの取組をしてはどうか
6		・児童相談所において、非常勤弁護士が法的な判断をすることにより、命が救われることも ・職権一時保護などの手続の際など、職員だけでは不安な場合には非常に有効 ・まだ保護した子どもを返すべきでないとき等に、里親の不足や受入先の空きがないことが課題と感じており、これらを増やす取組が必要
7		・「虐待の予防体制の強化」だけで一つ項目が立てられないか？ ・「子育ての悩みや不安の解消等」ということも必要だが、その前に、親が相談する、学ぶ場所を確保することが、予防体制に繋がると思う
8		・児童虐待について、もっと強化した取組や指標が必要ではないか ・虐待の相談件数、検挙率の引き下げ等を目標指標にしてもよいのではないか ・児童虐待は犯罪であり、幸せな子どもが育っていくため、児童虐待の減少が必要
9		・必ずしも、「虐待相談件数が下がったからよい」という評価になるとは限らない ・気づきが増えると件数は増えるため、保護者の意識調査などを目標値にしてはどうか ・専門家、専門職（弁護士、医師、心理士、社会福祉士等）の配置を増やして欲しい ・里親への支援も必要、数に加え質の向上を
10	ひとり親家庭	・ひとり親家庭への支援施策について、「WEBやSNS等を活用した広報・周知を強化」と記載した方がよい
11	高齢者の活躍	・老人クラブの活性化はよいことだが、地域の現状では、いきいきサロンやお茶の間サロンに変わっていきっており、県内ではどんどん減っている状況 ・老人クラブと各サロン等との連携も必要
12	障がい者	・口腔保健センターの認知度を上げる取組が必要
13		・口腔保健センターについて、県民が馴染みやすい愛称のような、親御さんのわかりやすい名称を付けるとよいのでは
14	循環社会	・プラスチックごみについて、わかっていることとわかっていないことがある ・科学の知見・成熟を見ながら県民に知らせていくという記載ができないか？

No.	項目	発言要旨
15	交通安全	・ラウンドアバウトについて、住民は事故対策等について不安もあるため、説明があるとよい
16	食の安全 ・安心	・高齢の経営者にとっては、HACCPは取り組みにくく、事業廃止するケースも ・そういった方々が取り組めるような研修の実施と、それを管理する指標も検討可能ではないか ・研修受講後の理解度など
17		・食中毒発生件数については、0件となるのがよいが、そもそも、目標件数が低い方がよいものを指標にするのは如何なものか
18	地域共生 社会	・8050問題等、複合的な課題を家庭は抱えている旨の記載があるとよい
19		・集落の動き・状況、高齢化の状況など、ワンストップでわかるようになるべき ・集落からしても、役場のどこに相談してよいかわからないような場合もあるため、庁内連携体制、ワンストップ相談体制の充実等に、市に対するアドバイスも含め、取り組んでいただきたい
20	ネットワーク ・コミュニティ	・小規模集落対策において、少子高齢化、人口減少が進む中、今やっていることをどう身の丈に合ったように縮めるかという視点で記載してもよいのではないか ・目標指標では構成集落数を増やすとしているが、もうちょっと頑張ってもよいのではないか ・団塊の世代が高齢化する中、こういった取組を進めるのはこれが最後のチャンスと思われる
21		・耕作放棄地等が増えていくが、農地でなくなるような土地をどうするべきか ・そういったところをちゃんとケアすることについても考えて欲しい
22	県土強靱化	・道路脇の大きくなりすぎた木の伐採などへの対応は、災害対策のためには大事なこと
23	災害に強い 人づくり	・福祉担当課と防災担当課をつなぐ人たちは大変 ・防災危機管理課などへ、減災ソーシャルワーカーなどの配置を見据えるべきではないか ・地域特性を考慮した避難訓練について、ハザードマップを考慮した訓練、高齢者・障がい者等当事者を本当に参加させた訓練の実施など、担う人材の育成も含め実現を考えて欲しい
24	感染症・ 伝染病対策	・目標指標の「抗インフルエンザ薬備蓄数」は県民にはわかりにくいのではないかと ・例えば、「感染症広域対応訓練」の回数、専門的な職員の養成数など、考えられないか
25	移住・定住	・島根では田舎の田舎で人が増えている ・大分でもそういったところにも力を入れて欲しい ・移住施策と農業、グリーンツーリズム等との取組の連携等、もっと取り組んでもよいのではないかと
26	芸術文化	・県立美術館の入館者数に係る目標指標について、せめて60万人にしてはどうか
27	-	・目標指標について、100%としたものは、本当に達成できるのか不安なものもある ・どのような決め方をしているのか？
28	-	・目標指標において、「累計」、「〇〇以下」など、わかりやすい表記について検討を